国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

「国労解体」やらなかったから 執行権停止…（水戸）

動労革マル・松崎 やっぱり「本性」露わす

動労高崎の仲間に暴行……（横川）

日刊 動労千葉

87. 1. 21

No. 2457

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一―八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「人活」裁判おこした組合員を「組合員権停止」……（大阪）

すべての組合員の皆さん。動労革マル松崎は、なりふりかまわず動労組合員を「地獄」にたたきこもうとしている。一方では、動労水戸地本委員長などの「執行権停止」、大阪地本組合員への「除名処分」。そして、動労高崎の革マル分子による動労高崎連帯労組の仲間への監禁・暴行などと動労革マル・松崎がいよいよ「本性」を露わにし　暴力的・反労働者的攻撃を強めている。

「国労解体の成果があげられなかった」ことが処分理由

一月九日、動労革マル・松崎は、動労水戸地本委員長・長谷川氏と水戸支部委員長・植田氏に対して「執行権停止」の統制処分を強行した。理由は、㊀国労解体の成果をあげられなかった。㊁動労水戸の結成で組織人員を減らした、というのだ。

ところで、一月十三日、動労大阪地本において「人材活用センター」へ配転された二名の組合員が人活裁判を起こしたことを理由に、査問委員会にかけ「組合員権停止」処分をかけてきた。

政府自民党・国鉄当局の先兵となり、動労千葉・国労解体と国鉄労働運動破壊に血まなことなってきた動労革マルは、いまや、動労組合員の首切りをもやろうとしている。

「国鉄改革に反対する者を力で壊滅へ」と叫ぶ松崎

十万人首切り、国鉄労働運動解体攻撃の手先になることを断固拒否して、動労より訣別した動労総連合・動労高崎へ動労高崎地本「横川支部」より岡田氏が勇気をもって加入した。

ところが、高崎地本に巣食う動労革マルは暴力による職場支配をほしいままにしてきた「本性」をついにあらわし、昨年十二月二九日、こともあろうに、岡田氏に脅迫・暴行を加えてきたのである。

動労革マルの危機は深刻

「国労解体」を実行しなかった、「分割・民営化に反対」している、ことをもって「処分」「暴力」の挙にでてきた動労革マル松崎の危機は深刻だ。中曽根・杉浦にこびへつらい、動労千葉・国労解体にだけ血道をあげてきた、にもかかわらず、動労千葉と国労の労働者は、いまだに分割・民営化反対の旗を守りぬき、健在だ。

何よりも、松崎方針に疑義をただす組合員を当局と結託し「人活」へ送り込み、国労の労働者が首を切られることに拍手を送って、自分たちだけ当局にとりいって「新会社にいく」ことが「雇用を守る」といってはばからない動労革マルに対し内部より猛然たる批判がまきおこっている。

動労革マルを一掃し、動労大改革へ！

動労水戸

委員長ら執行権停止

脱退を容認と中央本部

動労水戸地方本部の長谷川副委員長と上田書記水戸支部長が、九日付で動労中央本部から執行権停止処分を受けていることが十五日、わかった。水戸市内での日、開かれた国鉄民営化に反対する水戸動労（国鉄水戸動力車労働組合）の旗開きの席上、水戸動労幹部が明らかにした。

処分の理由として動労中央本部は、長谷川委員長については、国鉄改革協結成後も脱退者による水戸動労の結成を許し、組織拡大を掲げた本部方針を守れなかったことや、指導力の低下などを、上田支部長については、水戸動労を擁護する発言をしたことなどをそれぞれ挙げている。

執行権停止処分により、二人は組合員としての資格はあるものの、組合員に対し、長としての権限を行使できなくなった。処分は一時的な措置で、中央本部はきょう千六日、箱根で臨時大会を開き、査問委員会を設置し、二人の最終的な処分を決定する。

一方、動労水戸地本は十九日、水戸市内で臨時地本大会を開き、役員の改選を行う。長谷川委員長ら現執行部は、中央の松崎明委員長を中心とする勢力と一線を画してきた反主流派で、松崎中央委員長を支持する主流派から新委員長が選出される可能性が強い。

1/16 読売

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！